

小説・江戸神仏歳時記 (17)

東京上野不忍池弁天社



郡 順 史

上野の不忍池の弁天さまにお参りに伺ったのは、平成二十年七月二十五日気温三十五度というカンカン照りの午後二時であった。

不忍池には蓮がびっしりと咲き、池の水が見えぬほどであった。

江戸名所図会には、『不忍池。東叡山の西の麓にあり。江州琵琶湖に比す。広さ方十丁許り。池水深うして杲魃にも涸ることなし。殊に蓮多く、花の頃は紅白咲き乱れ、天女の宮居はさながら蓮の上に湧出するが如く、その芬芳遠近の人の袂を襲ふ』と。

結語の「袂を襲ふ」というのは、涼風をおくって慰めてくれる、という意であるから、何やらほっとしながら、眼前の島の中央に建つお宮を目指して参道の宇治橋を渡るといふ事。

しかし今日は少しも涼しくならない。両側に屋台のお店が有り、冷たい物やきソバみたいなものを売っているが、客がない。いや中には売り手の姿も無い。暑いのと参拜者がほとんど無いからである。でも、江戸時代前期には、橋が無くて参詣人は乗り合いの川舟で渡ったそうだから、それに比べれば歩いたほうが、少しは陽を浴びる時間も短かいのではないか、と自分をなぐさめた。

手を洗い拝殿の前に立つ。拝殿のすぐ奥が本殿で、弁天さまが鎮座しておられる。宮居も華麗で

しかも氣品をただよわせているが、拜殿、本殿ともに、美しい弁天さまがお住いになるのにふさわしい氣品と尊貴さにつつまれている。しかも天井には、絵が描かれており、一層美しさと氣品をかもしたしている。

現在日本には、三弁天と言つて、有名な弁天さまを祀つたお宮が三ヶ所あるという。その一つが琵琶湖竹生島の宝巖寺弁天、二つ目が関東の江の島の弁天さま、三つ目が広島巖神社の弁天さま。だが、この上野不忍池の弁天さまも、けつして日本三弁天さまに負けていないと思うが、いかがであらう。

この不忍池の弁天さまの御創建は、これまた江戸名所図会によると、徳川三代將軍家光の寛永（一六二四）のはじめのころ、東叡山寛永寺の天海僧上が、眼下の池と中島を見て、
「あれを江州琵琶湖の竹生島をうつして、弁才天を祀ればよい」

ともらしたのがきつかけで、早速竹生島弁天堂にならつて中島を構築し、祠を建て、弁天さまを動請したものだとなる。

これが江戸っ子の人氣を呼び、連日參詣者で大賑わいをもせたという。ただし安政三年（一八五五）の大地震によつて倒壊し、その後更に美麗に再建されたのが、現在の弁天堂の姿である。

ところでこれを読まれる読者の方々は、弁天様

に二つの種類（？）が有るのをご存知であらうか。筆者も比処の弁天さまをお参りするまで全然知らなかつた。弁天さまというのは、美しいお姿で、七福神のお一人として宝船に乗り琵琶を胸にかかえ微笑んでいらつしやるその一種だけ、と思つていたのである。

ところが拜殿から本殿を覗くと、坐つていらつしやる弁天さまは、八本の手を持ち、それぞれの手に剣だの楯だの色々の物をお持ちなのである。

これは何事と、資料帳を調べてみると、弁天さまには、二本の手で琵琶をお持ちの二臂をお持ちのお方と、八本の手すなわち八臂をお持ちの弁天さまがいらつしやる、と書かれてある。

へーえ、と思つて更に調べると、弁天さまの本名は、べんざい天とお呼びするが、そのざいの文字を、弁才天と書くのと、弁財天と書くのととの二つがあり、弁才天のほうは、才学、芸能、言語などを司どり、弁財天のほうは財産、蓄財、商売繁昌を司どつていて、というわけである。

つまり学校の成績がよくなるようにとか、希望する学校の試験に合格するように、いい小説が書けるように、と思つたら、弁才天さまにお願いすればよく、事業や商売がうまくゆくようにと思つたら、弁財天さまを拜げばよい、という具合のようだが、しかし実際はどちらの弁天さまも、両方のお力を持つていて、両方のお願いをかなえて下

さる、と、そこは美人でも神さまだから。

もう一つ判らないのは、通説で、「弁天さまはやきもちやきで、夫婦連れや恋人同士でお参りする、バチが当って別れ別れになってしまふ」という説がある。

どうも眉ツバものと思うが、まさか宮居さんに訊くわけにはいかないので、屋台のラムネ屋のおじさんに訊いてみると、

「そんな事をよく言いますが、言う奴の方がやきもちやきで、デタラメを言いつらしているんじゃないかありませんか」

という答えだった。筆者もそう思うので、ご夫婦、恋人同士の方々、安心して手をつないでお参りなされまし。

二

現在は余り言わなくなったが、江戸時代は上野の山全体を「忍が岡」とよんだ。にもかかわらず池をなせ「不忍池」とよんだのであろうか。「江戸名所記」には、単に忍が岡の対比と簡単に書かれているが、この池は「池水深うしてあらゆる旱魃にも涸ることなし」というほどのものだから、もつと意味深の名を付してもよかつたのではないか、と思つたりする。

それにこの池の水は、人間には美味でもなんでもないが、鳥や獣にとつてはひきつけるものがある

るらしく、現今でも水鳥やカラス、ハト、スズメなどが群れて訪れている。それよりも何よりも、江戸時代は、寛永寺の門の左右の柱に彫られている昇り、降りの二匹の竜（左甚五朗彫と伝えられている）が、毎夜門柱を抜け出して、朝まで、不忍池で水を呑んだり、遊びたわむれているという伝説がある。

そしてもう一つ、この池にまつわる面白い話が残されている。

むろん江戸時代だが、文化文政から天保にかけて（11代家斉将軍・一八〇四—一八三二）江戸の最も爛熟退廃した時代）池の端に十五軒の出合い茶屋があつたという。

出合い茶屋というのは、ご存知と思うが、ただのお茶を飲ませたり料理を食べさせたりする茶屋ではない。

要するに、番頭と娘とか女中とか、あるいは亭主を失つた後家さんと町内の男衆とか、たまには家の都合で家では出来ない事情のある夫婦とかの、つまり人眼をしのぶ男女が、こっそりとデートをし、男女のよろこびに浸る、現今で言うラブホテルである。

従つてこの出合い茶屋をひやかした川柳がいくつもある。その中で男どもを、ウーンと唸らせるものをいくつか例記してみよう。

◎ 出合茶屋忍ぶが岡はもつともな。

◎不忍と云へども忍ぶにいいところ。

◎人の目を忍ぶ岡へ二人づれ。

◎出合茶やほれた方から払いする。

◎出合茶やはめをはづしてしなどいふ。

実にたくみに男女の機微をよんでいるとは言えないだろうか。殊に最後の句は、年増の後家さんが、若い男の手を引っぱりながらの科白せりふを連想させ、そのあせりと期待と嬉しさにわくわくしている胸の内を想像させ、なんともいえない笑いがこみあげてくるではないか。

それともう一つ。お祀りしているのが女性神であるせいか、性の見物が、本殿の建物の奥に在る。ぐるっと本殿をまわった境内の右手に小さな橋がありその奥にそれは在る。その前には鉄の扉があり鍵がかかっている中へは入れないが、奥に男根の石の像が立っているのが覗き見える。それだけなら珍しくもなんともないが、その裏側に女陰が彫り込んであつて、「俳風未摘花」の記述によると、この女陰は單に写実的であるばかりか、世のあらゆる女性の魂が乗りうつっている如く、男性なら見ただけでたちまち淫氣を催すというのだから、余程の傑作ではないかと思う。ぜひ拝見したかったが残念至極というところであつた。

しかしそれにしても、もしも本当に男性に淫氣を催させるならば、現在日本の男性の一千万人がインポテンツで苦しんでいるという話ゆえ、オー

ブンにして、そうした男性に自由におがませた方が、世の為、男性の為になり、お参りする者も踵を接して大繁昌するのではなからうか、と思つたりしたが如何なものであろうか。

それはさておき、ではこの弁天さまは一体どのようなご利益をお参りし、願かけをする庶民に与えて下さるのであろうか。

毎度記すが、どんな神社仏閣でも、ご利益があるや無しで、はやつたりすたつたりするものだ。それが神や仏にたよる庶民の心というものなのである。

では上野不忍弁天さまは？

三

「どんなご利益があるんですか？」

ご利益は、どこの神社仏閣でも教えてくれない。神仏は参拝すれば必ず健康で元氣をおめぐみ下さる、それがご利益です、が立前であるからだ。つまりご利益を売り物にするような神仏は本物ではない、と言うわけ。

それで、屋台のおじさんに、夏のおでんを注文して訊いた、というわけである。ちなみに夏のおでんも仲々に味で、おいしいものであつた。

おじさん旧く。

「ご利益はいろいろ有りますよ。そうだ、内山のおひな婆さんに訊いてごらんなさい。彼女なら一

杯知っているから」

そこで早速、精養軒の左手奥にある茶店におひなさんをお尋ねした。

「さいわいおひなさんは在店していて、心よく話をきかせてくれた。」

その前におでん屋のおじさんに言われて、拜殿前の左手に建っている石碑などを見てまわった。どれもが大願成就の御禮の石碑で、三味線、小唄、舞扇など芸事に関するものが並んでいる中に、何故かスッポン感謝の塔、ふぐの供養塔も有ったりした。むろん琵琶の発願感謝御禮のもの有るが、それにしても広範囲にわたっているのはちよつと驚きであつた。

さておひなさん、婆さんと言うのには氣の毒な、六十代そこそこの元氣な声のよく通る女性で、筆者の質問に、

「この弁天さまは、財産お金儲けにご利益があると云うけど、私の聞いたりした範囲じゃ、やっぱり女神さまだもの、女性に関するご利益が多いと思うよ。それと芸事、昔は柳橋とか浅草の芸者衆がよくお参りに來た、と聴いているよ。それから三味線を弾く新内とか長唄だの家の元さんや修行中の人とが來たようだよ。中にはお宮さんの前に坐つて、三味線を弾いて唄つたりした人もいた、という話ですよ」

「この弁天さまは、そうした芸事もさることな

がら、弁財天といつて、財物關係にも強いと聴きました」

「そうなんです、商売がうまく當つたとか、土地が高く売れて大儲けしたなんて言う話は、あんまり人に喋らないんじゃないの。私は一人しか知らないよ。その人は北海道に地所を持つていたが、商売の方がうまく行かず破産寸前になつちやつたが、ここへ十日間毎日お参りに來て一ヶ月後にその北海道の土地が高く売れ、破産寸前の商売の方も立ち直つたという話だよ。偶然だろうけど」

「偶然でもよかったですね」

「ああそうそう、学校のお願ひも弁天さまがきいて下さつた、という話もあるよ」

「ほう、どんな話ですか」

「その子はある大学に入りたいという希望が有つて、高校の時分から月に一、二回お参りに來て、試験の二、三日前には毎日來てお願ひしていったんだつて。そしたらさ、自分がヤマを掛けていた問題が出て、パスして大願成就だつてさ。その子、もう学校を卒業して会社勤めをしているけど、でも今でも月に一度はお禮参りに來ている、つて話だよ。いい話だろう」

「根がまじめな人なんですよ。ところで一つ質問があるんですが」

「なんです」

「子供に育てるとか、安産とか、子供に関するご

利益のほうはどうなんです」

「そういうのは他にも一杯あるから。でも、お参りしたら五年も出来なかつた子宝がさずかつたとか、難しいお産がとでも軽くすんだ、という話はちよくちよく聴いたよ。だからお願いすればきき届けて下さるんだよ、きつと。それと結構、特に結婚前の女性が熱心にお願いすると、いいお相手をさずかるそうよ。何だつたらその女性を紹介しましょうか、逢つて直接話をきいたら？」

「いや、結構です。では最後にもう一問。弁天さまは女性だから、数多い弁天さまの中には、子持ち弁天、つまり琵琶のかわりに赤ん坊を抱いて子育てをしている弁天さまというのはいないのでしょうか。聴いたことがありますか？」

とたんに彼女は、プツと噴き出して、
「そんな変な弁天さま、聴いたことがないわよ」と、肩を叩かれた。

一時間半くらい話し込み、これ以上は商売の邪魔だし、話も尽きたと思ひ、商品の福々大ふくなるものを三十箇も買つてお店を出た。この大ふく、誰に食べさせたらよからう、と思ひながら。

ともあれ今回の江戸時代から続くご利益いっぱいの弁天さまを取材出来て、よかつたと思う。そしてしみじみと積み重ねる歴史というものの有難さをおぼえたのであつた。

最後になつたが、この上野不忍池の弁天さまの

行き道を記す。

なんと言つてもJRの上野駅から便利で近いが、道は二つある。一つは駅正面を出て右へ行き、上野駅が尽きた所に映画館があり、その映画館を左に見て右に曲り三分歩くと左手に池があり、渡り橋の向うに本殿が見える。

もう一つは、駅を出て右に行くと階段があり、坂を登つて行くと左手に精養軒が見え、その前の坂を下ると本殿前へ出る。ちなみにこの精養軒一帯を今も忍が岡とよんでいるそうだ。

— 次回の予定は浅草・金竜山浅草寺 —



■欄間彫刻(表紙説明)

香川県産の間伐材を使い、欄間彫刻の技術を活かしたものを商品化しようと、源平・遍路などテーマ性のある作品づくりが進む。那須与一の鎬矢まで精密に再現されている。

小比賀 正(おびかただし)プロフィール

一九四三年

●綾歌郡綾川町生まれ

一九九八年

●欄間彫刻の伝統工芸士としての認定を受ける。

香川県高松市松福町一丁目一の五

TEL・FAX／〇八七―八二二―〇五一六

「酒林」随筆特集 第七十六号

平成二十年十月一日号

発行人 西野 信也

印刷人 株式会社 太陽社

発行所 西野金陵株式会社

高松市亀井町二番地八

万一乱丁・落丁がありましたら、「一報下さい」。